

# 雪像・かまくらづくり

※ ここでいう「かまくら」は、穴を下に掘っていく「雪洞」や雪ブロックを積み上げていく「イグルー」ではなく簡易的な「かまくら」をさします。



## プログラムの概要

雪は、冬を代表する自然現象のひとつです。雪国ならではの体験である「雪像・かまくらづくり」を通して、グループ内の団結力や協力して取り組むことの大切さを学びます。また、自由に形を変えられる雪は、創造力を育んでくれます。かまくら内部の温かさや意外な明るさ、雪の固さなど新鮮な驚きや感動を与えてくれることも、このプログラムの魅力の一つです。

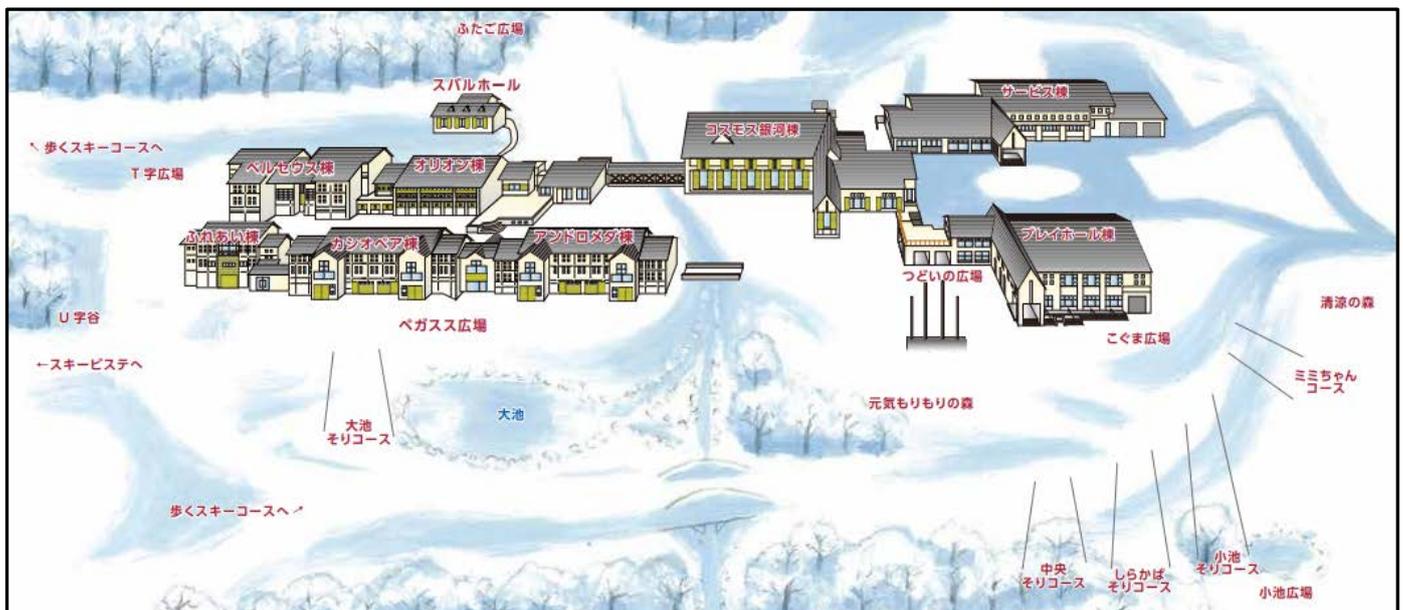
簡単そうなプログラムですが、用具を使ったり、空洞を開けたりするので安全面での配慮が必要な活動です。ルールを守って安全に活動できるように指導が必要です。

## 1 活動のねらい

- 自分の役割を果たしたり、周りと協力したりする力を養う。
- 表現のアイデアや作り方の工夫など創造力を養う。
- 安全に活動するためのルールやマナーを守る力を養う。

## 2 活動のフィールド（人数が多い団体は、そりコースでのそり遊びと併せて活動することがお勧めです）

- ペガスス広場（大池そりコースでの活動とセットで使用が可能）
- つどいの広場（元気もりもりの森や中央そりコースでの活動とセットで使用が可能）
- 元気もりもりの森（つどいの広場や中央そりコースでの活動とセットで使用が可能）
- 小池広場（小池そりコースでの活動とセットで使用が可能）
- ふたご広場
- その他（キャンプ場周辺やU字谷など積雪が多く、雪庇や落雪の危険がないところ）



## 3 準備品

○団体・個人で用意する物：飾りつけをする木の実や枝等、雪の形をつくる衣装ケースやボウル、三角コーンなど、中に敷く銀マット、左官ゴテ等（※すべて必要に応じて）

○自然の家で貸し出せる物：スコップ各種、移植ゴテ、スノーダンプ、バケツ

※物品の貸出・返却のながれについては、4ページを参照してください。

※物品の説明については、別紙「冬季活動貸出物品名称一覧」をご覧ください。ホームページからも閲覧可能です。

### お願いと注意！

- 破損の多い物品です。丁寧に扱ってください。
- 借りる時には破損していないかを確認してください。
- 破損・紛失があった場合には事務室に連絡をしてください。  
→状況によっては、弁償の対象になります。

## 4 人数

1グループ3～5人程度の活動が適当。

## 5 活動の手順 ※作るものや大きさによって多少違ってきます。

「雪像・かまくらづくり」はとても楽しい冬季活動です。また、雪国の遊びとして、ぜひ子供たちに体験してほしいプログラムです。しかし、**事故・ケガがとても多い活動**でもあります。とくに多い事例は、**スコップが他人や自分にあたってケガ**をすることです。予測される危険な場面を指導者のみなさんがよく理解し、子供たちにルールをきちんと伝えてからの活動をお願いします。

### (1) 設計図づくり (事前学習で行うことをお勧めします)

雪の固め方や積み方を学びます。その後、雪像やかまぐらのデザインや大きさ、レイアウトを考えて図で表現します。ソリ遊びとローテーションしたり、スノーキャンドルとして活用したりする場合は、どのような流れで進めていくかも計画しましょう。

### (2) 作る場所と大きさを決めます。周囲との安全も確保できるようにしましょう。

太陽の向きや風向きも配慮すると(かまぐらの入口は風下を選ぶ)より快適に活動できます。

### (3) 道具の使い方や雪像の作り方、危険行為と注意点などを確認します。

①硬くて先のとがった用具を使うので、周囲の状況に充分注意して使用する。

②洞を作る場合は、抜け落ちに注意して作業をする。

③った雪像やかまぐらは、活動後(その日のうちに)必ず壊し、穴も必ず埋める。

④×印の竹竿の先は危険箇所(屋根からの落雪、池など)のため、近づかない。

### (4) 雪像やかまぐらを作る場所と周辺をよく踏み固めます。

### (5) 雪を積み上げる。

**方法1** 周りから雪を集め、積み上げながら踏み固めます。

かまぐらの場合は、壁の厚さが30cm~50cm程度あればかなり丈夫になります。4~5人が入るなら、床面2m×2m程度あるとよいでしょう。



**方法2** しっかりと固めて作った小さい雪玉を雪の上に転がして、雪を付着させていきます。いろいろな方向に雪がつくように、転がすときれいな丸になります。



**方法3** 衣装ケースやボウルなどに雪を詰めて固めたものを積み重ねていきます。

### (6) 形をつくる。

①雪像 →雪を削ったり、くっつけたりして形を作っていきます。作るものによっては、作業を分担するとよいでしょう。(例 メイン雪像班と周囲のサブ雪像班など)

②かまぐら→穴を掘ります。掘る人と掘り出した雪を運ぶ人と、作業を分担するとスムーズに進めることができます。



### 雪像の形を作っていくときのアドバイス

氷点下を下回るような寒い日は、水で溶かしたシャーベット状の雪を接着剤として使うと便利です。

## (7) 仕上げる

雪像とかまぐらの雪面の凹凸がないように、手や移植ゴテ（必要に応じて左官ゴテ）などで削ったり、押し固めたりしながら平らにしていけます。内部も、水滴が落ちないようにできるだけ雪面を滑らかにします。（※凹凸があると、その箇所から溶けだし、水滴が落ちたり崩れたりします。）

### 仕上げる時のアドバイス

- ①雪像 → あらかじめ準備した小道具（木の枝や木の実、ペットボトルの蓋、しゃもじなど）で目や手を表現したりすると可愛らしく見えます。スプレーなど色を付けるものは、次に使う団体の迷惑になるので控えましょう。（色を付ける場合は、ご相談ください）
- ②かまぐら → 外も中もドーム状に仕上げるときれいに見えます。天井の厚さが30cmを下回ると、落ちてくる可能性があるため薄くしすぎないように注意しましょう。



## (8) 名残惜しいけど、崩す。穴を埋める。

自分たちで作った雪像は、記念にとっておきたいところですが、活動が終わったら必ず崩し、開けた穴も埋めて、できるだけ平らな状態に戻しましょう。そのときの言葉がけにも「崩すけど心の中に残っている」「次に楽しむ人へ思いやりとして」等、ひと工夫加えると活動の質がより高まります。

## 6 発展として作ってみると楽しいもの

### (1) 雪のテーブルとイス

- ①テーブルの大きさ（広さ）や形を決めます。
- ②雪面を踏み固めます。
- ③テーブルの形になるように雪を掘ったり削ったりします。
- ④腰かけられるように、テーブルの外側を椅子の形に掘ったり削ったりします。
- ⑤凹凸がないように雪面を整えます。



### (2) 雪像やかまぐらをキャンドルで飾る

- ①つくった雪像やかまぐらの周りをキャンドルで飾ります。
- ②場合によっては、雪像やかまぐらにロウソクが入る穴をあけたり、キャンドルをくっつけたりします。  
※スノーキャンドルの作り方は、別紙プログラムシート「雪灯ろう」をご覧ください。
- ③夜、スノーキャンドルに火を灯します。ロウソクは風を受けにくい平らなものがお勧めです。
- ④雪像やかまぐらを囲んで、活動の振り返りをしたり、温かい飲み物を飲んだりします。
- ⑤活動終了後、ロウソクの火を消して回収します。



### (3) 雪のスクリーン

- ①プロジェクター等の投影箇所を平らにします。（機械を濡らさない！）
- ②作ったスライドや動画を投影して楽しめます。



### 天候に注意！

「雪像・かまぐら」は、気温が高くなると雪が溶け、崩れやすくなります。雨が降りそうなときや、氷点下にならない日は、そういった危険も考えて活動するようにしましょう。